

「COVID-19に関するアンケート調査」 にご協力をお願い

2020年7月10日
社会鍼灸学研究会

1. 社会鍼灸学研究会について

社会鍼灸学研究会は、「日本における鍼灸の社会的な立場や地位を歴史的、社会的に的確に把握し、現代および将来において、鍼灸（臨床分野だけでなく）へ投げかけられる諸問題に的確に答え、かつ社会変動に迅速に対処することのできる力量を備えることが、日本鍼灸界に必要であることを強く感じ」、「社会的な手法をもって鍼灸に関する総合的な事柄の議論を深め研究すること」を目的として、2005年に発足し、現在まで15年間活動を続けています。

毎年1回の学術研究会と総会を持ち、会員の研究発表や各年毎のテーマについて、講演や討論を行っています。

*研究会ホームページ URL =

<http://www.doho-acu-moxa.com/fssam/>

2. COVID-19 アンケート調査実施の目的について

2020年は、9月に研究会開催の予定ですが、今年度のテーマは、「COVID-19と鍼灸—COVID-19 禍中の日本鍼灸とそれを取り巻く状況を考える—」とし、現在パンデミックな状況にあるコロナウイルス感染症蔓延による日本鍼灸および世界の鍼灸界がどのようにコロナ禍に対処しているかについて、総括をしたいと考えます。

アンケート実施は、国の緊急事態宣言が解除され、各自治体が緊急事態措置を解き、一定の状態を保っている7月の時点において、2020年2月～6月に日本鍼灸界がどの様であったのかを調査することを目的としています。

日本全体でどの様な動きがなされているかを調査しますので、出来るだけ多くの方々にご参加下さることをお願い申し上げます。

3. アンケート実施方法について

アンケートは、鍼灸関係の、学術団体、研究会、業団体、教育機関、等を通じてお願いする予定です。もちろん、組織に所属していなくても、ご回答いただけます。アンケートは、本研究会HPページにも掲載されます。

質問項目は、出来るだけ回答しやすいように、選択肢から選択することを基本としております。しかし、質問項目は少なくありません。未曾有のコロナウイルス感染の状況ですので、出来るだけ正確に日本鍼灸界の現状を捉え、分析して、関係の方々にお知らせしたいと考えていますが、それとともに、後世に現在の状況を伝え、後々、何らかの活用をして頂くことを期待して作成しています。

是非、ご協力をよろしくお願い致します。

4. 個人情報保護について

本アンケートは、google フォームを使った調査ですので、回答された特定の方の個人情報が明らかになることは、ありません。

アンケート回答結果のデータは、社会鍼灸学研究会が責任を持って保管し、分析致します。

5. 調査結果の公表と活用

アンケート結果は、本年 9 月 21 日の研究会で発表致します。

また上記のように、会員へのアンケート調査協力依頼をして頂くなど、ご協力下さいました団体へは、主な集計結果をご報告致しますので、ご活用頂ければと思います。

6. アンケート締め切り日

アンケートは、8 月 10 日（月）を締め切り日とさせていただきます。

それまでに、ご回答下さいますよう、お願い申し上げます。

7. COVID-19 に関するアンケート調査票

下記 URL に調査票がありますので、お答え下さい。

<https://forms.gle/4Z1Ljcm7QT6gZp2A>



第15回社会鍼灸学研究会 2020

日時；2020年9月21日(月曜日、祝日)、10:00~16:30

会場；①学校法人 素霊学園 東洋鍼灸専門学校
〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-4-4

②Web会場 (zoom 予定)

主催；社会鍼灸学研究会

テーマ

COVID-19 と日本鍼灸

—COVID-19 禍中の日本鍼灸とそれを取り巻く状況を考える—

2019年の年末から始まったとされる中国を発生源とする新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、地球上に蔓延し、WHOは100年前のスペイン風邪の流行を大きく凌ぐ規模の死者を予測しています。COVID-19禍は100年に一度の災害であるとする中、鍼灸に何ができるか悩み、自問した方も少なくないと思います。

東京都鍼灸師会が4月末に会員・その他に対して実施したアンケート調査によると、回答者416名中、来院者は「減っている」と「やや減っている」の合計の割合は、3月は76%以上、4月は96%以上であり、COVID-19拡大の影響は明らかです。

このような中で、日本の開業鍼灸師はどのような状況に置かれ、鍼灸教育施設ではどのような教育上の工夫をし、学生の為に今後どのような計画を建てているのでしょうか。また、これまでの自然災害の時に行った鍼灸師による災害支援は、この感染症に対してはどのような動きをしたのでしょうか。さらに、世界的にCOVID-19が拡大した状況下で、海外の鍼灸界はどのような状況にあったのでしょうか。

第15回社会鍼灸学研究会では、未曾有のCOVID-19のパンデミック下で、国内外の鍼灸界がどのような状況に置かれ、どの様に対処したのかを総括しておきたいと思います。

本研究会は、例年、1.5日の開催期間を設定し、一般研究発表とテーマ別の講演の2本立てで行って来ました。しかし、今年度の本研究会は「COVID-19と鍼灸」にテーマを絞った講演と討論を中心に、1日だけのWeb会議形式で開催し、参加希望者は遠隔からの参加形式とします。

また、例年行っている「研究発表」は、10月18日(日)とし、発表希望者と参加希望者はWeb開催形式で、発表・質疑・応答する方式とします。

研究会日程

10:00—10:05—開会の辞

10:05—11:25—日本鍼灸界とCOVID-19 —本会アンケート調査結果報告—
社会鍼灸学研究世話人会

11:25—11:50—あはき師養成校におけるCOVID-19の影響；
嶺聡一郎・専門学校 首都医校

11:50—12:20—総会

12:20—13:15—休憩

13:15—14:05—世界の鍼灸とCOVID-19(各25分)

・中国の対応 (仮題)；

渡邊大祐・小雀斎針灸治療院

・『北米東洋医学誌』に見る世界の対応 (仮題)；

水谷潤治・NAJOM 主幹

14:05—15:20—COVID-19に立ち向かう医療分野での支援者支援の状況(各25分)

- ・東大病院における実践(仮題);
粕谷大智・東大病院リハビリテーション科
- ・目黒区鍼灸師会の活動報告(仮題);
林真紀子(りんご鍼灸院)
- ・医鍼連携グループの活動(東方医学会)(仮題);
赤羽 峰明(あか羽鍼灸院)

15:20—16:20—総合討論

16:20 —閉会の辞